

# 埼玉育ちのグローバル人

## Hakuna matata! ケニア子育て体験記

### 第2回 「全てが polepole! の ケニアの生活」



埼玉県マスコット  
「コバトン」



今村 玲子さん

家の入居にあたり、電気をひいたり家の修繕をしたりするのは日本でも同じですが、大きく違うのは、何をするにも時間がかかることでした。「すぐ行く」と言われても来るのは翌日。「明日！」だったら 1 週間という具合です(笑)スワヒリ語に polepole (ゆっくり) という言葉がありますが、まさにのんびりなのです!

ある日、電気工事が終わり支払いの時に「約束の日時に来なかった!」と文句を言いました。すると電気屋はきょとんとして「電気はちゃんとついたではないか! Hakuna matata (問題ない) だ!」というのです。言語の問題もさることながら、そのあっけらかんとした態度に返す言葉が出ませんでした。お客に対してどうしてこんなにも悪びれることなく、この様なやり取りができるのか? 驚きました。

またこんなことも。ケニア生活では、日本からの小包はちょっとした楽しみでした。ところが、小包を受け取るのが 1 日がかりの大仕事。初めて行った時、長男を連れていき手続きにかかる時間の長さで閉口しました。動き盛りの幼児と一緒にには行けることはありません。以来、郵便局へ行く日は、息子を友人に預かってもらうか、メイドさんにみてもらうようにしました。ナイロビの中心地にある郵便局。受付で順番を待つこと 1 時間以上、やっと窓口と呼ばれると目の前で小包を開封され中身を箱から取り出しては「これは何?」「日本では

いくら位するのか?」等と質問されます。鰻の真空パックが入っていた時には、「日本人は蛇を食べるのか!」「これは蛇ではない!」と、鰻の説明に時間を取られる始末。全てのチェックが終わると、その場で税金をかけられるのですが、課税の基準は曖昧で、金額は担当者の胸三寸。担当者のご機嫌を損ねない様に、作り笑顔で質問に答えました。日本では、レジ待ちでさえ、イライラする人をよく見かけますが、ここでは長時間待つ人たちも、窓口で質問を受ける人たちも、みんなのんびりしたもの。ケニアの人はなぜこんなに穏やかに待っていられるのだろう? と不思議でした。

何をするにも時間がかかり、そのことに疲れていた私ですが、ある時、スーッと霧が晴れるような気持ちになった出来事がありました。



旅の途中 行く手にはキリンが!!

夫の運転する車で 300 キロほど離れた国立公園に旅行に行く途中のことでした。助手席の私の中には、地平線までまっすぐ続く道、遠くにキ

リンがゆっくり歩く草原！道端には、大きな荷物をおろして座る人たち。マタトゥと呼ばれる乗り合いバスを待っているのです。辺りにはバス停も家らしい建物もありません。もちろん時刻表なんてありません！いつ来るかわからないけれど、いつかはやって来るバスを人々はただ座って待っているのです。ケニアの人たちは、このようなゆったりした時間の中で生活しているのです。



乗り合いバス「マタトゥ」  
定員はその日乗りたい人の数

のんびりいこうよ！電気がつかなかったらロウソクの灯りで！今夜寝るところがあるんだ、問題ない！少し待てば、小包を開ける楽しみがあるじゃない！イライラしなさんな！

電気屋さんや、郵便局で待つ人たちの声が聞こえてきそうです。

道端に座りじっとバスを待つ人の姿はケニアの広大な景色とともに今も脳裏に焼き付いています。ケニアの polepole を体感した出来事でした。Polepole！Hakuna matata。のんびりいこう！多少時間がかかっても、問題ない！言葉の響きもその感覚も大好きになりました。

話変わって、ケニアでの日本人子育て事情を！ナイロビの街にはブランコや滑り台、砂場のある児童公園はありません。公園に行って同年代の子たちと遊ばせたり、ママ友とおしゃべりしたり、そんな普通のことができなくなりました。私たちは、子どもを遊ばせるために朝お菓子やスナックを作り、個人宅に集まって夕方まで子どもたちを遊ば

せませす。子どもを遊ばせることは1日の重大な仕事でした。

そんな日々を過ごし半年、第二子を授かりました。定期健診の日や出産前後のある期間、これまで様にお友達の家遊びに行ったり、我が家に来てもらったりすることができなくなります。長男の岳を毎日どうやって過ごさせようか？同年代の子どもたちと遊ばせなければ！私の頭の中はそのことでいっぱいでした。少し年上のお友達は幼稚園に入りだしたし……。そこで知り合いのお子さんが通うインターナショナルの幼稚園に岳を通わせることにしました。心配もありましたが、岳は嫌がることもなく元気に通園し、帰ってくると覚えた英語を流暢に話しては私たちを驚かせていました。



幼稚園での共通語は英語  
進化する岳の英語に毎日驚きました

ところが、発表会の練習が始まったころ岳に変化が現れました。目をパチパチさせる所謂チックの症状がでたのです！赤ちゃん返りしてもおかしくない時期に、言葉の通じない新しい環境で、2歳半の彼は一生懸命頑張っていたのでしょう。私は、自分が思うように動けなくなることで色々焦り岳からの小さなサインを見逃していたのかもしれませんが。

出産予定日が近づいたころ岳が高熱を出しました。かかりつけの医師（イギリス人女性の優しくとてもいい先生でした）に診てもらったところ、何と風邪から肺炎を起こしているとのこと！大変、もうすぐ赤ちゃんが産まれるのに!! 先生の説明は何とか理解し、処方箋を持って薬局に行きました。ところが、インド人薬剤師の英語がなかなか理解で

きません。処方間違いは大変ですから、分からないことを何回も聞き直す私。彼女はイライラした様子で説明します。「何回、同じこと言わせるの!!」そんな雰囲気でした。



二男の出産予定日が  
近づく中 岳が高熱を！

何とか薬を受け取り、帰る車の中、涙が溢れてきました。ケニアに来てから張りつめていた感情の堰が決壊してしまったのでしょうか。異国での出産、その間の岳の生活・・・この時点ではまだ **polepole** や **Hakunamatata** を楽しむ余裕はありませんでした。